

平成25年度国庫補助事業：中央アジア地域等貿易投資促進事業
中央アジア等産業育成ビジネスマッチング事業
派遣型ビジネスマッチング
「カザフスタン経済特区・ビジネスマッチング」

実施計画書

一般社団法人 ロシア NIS 貿易会 (ROTOBO)
ロシア NIS 経済研究所
2013 年 11 月

1. 中央アジア等産業育成ビジネスマッチング事業の目的

本事業は、日本と中央アジア等地域との間の貿易・投資関係の発展と、対象国の産業多角化ならびに市場経済化促進に資することを目的とする「中央アジア地域等貿易投資促進事業」の一環である。原燃料・一次産品生産に特化した単純な産業構造を擁する中央アジア諸国にとって、産業多角化が長期的経済発展を図る上で不可欠の要件であるとの認識に鑑み、これを日本企業とのビジネスマッチングを通じて支援する。日本における事業パートナーの発掘を望む現地の業界団体・企業グループの訪日、あるいは同様に現地における事業パートナーとの出会いを望む日本の企業団体等の現地渡航を、情報提供や然るべき企業の紹介等によってサポートし、双方の交流活発化による貿易・投資促進を図る。

特に、原料基盤を生かした加工業、資源開発のサポーティング・インダストリーとなる機械製造業等、対象国に適合した製造業分野の企業と、加工度の向上や環境適応能力の向上につながる高度技術を擁する日本企業をマッチングさせることにより、前者には生産性や品質の向上、後者には新たなビジネスチャンスとなる双方ウィンウィンの関係構築を目指す。

平成 25 年度は中央アジア諸国の在京大使館ならびに ROTOBO の現地パートナー機関、また現地の日本センター等を通じて現地側より案件の募集を行い、書類審査により招聘あるいは派遣案件を選定した。

2. 派遣型ビジネスマッチング

1) 経緯と事業概要

平成 25 年度は 6 月 10 日に案件募集を、中央アジア 5 カ国のおよび現地パートナー経由で開始した。6 月末で締め切り、7 月中旬まで案件審査、追加情報の収集等を行った結果、受入型ビジネスマッチングの対象 2 件を選定したが、派遣型には相応しい対象を得られなかった。

一方、7 月初め、本事業を含む中央アジア地域等貿易投資促進事業のカザフスタンにおける主要パートナーである国家輸出・投資庁「カズネクスインベスト」より、現地日本大使館に国内経済特区の発展へ向けた協力要請があったとの情報を得た。特区開発戦略の共同策定等、広範にわたる要請事項の中に、特区に対する日本からの投資拡大への期待があるという。これを受け、8 月下旬に現地を訪問、カズネクスインベストにビジネスマッチングの派遣型を利用した日本からの視察団派遣と、これによる特区内企業との交流促進に関心があるかと打診したところ、極めて前向きな反応であった。

以降、カズネクスインベストより特区進出企業に関するデータ提供を受けつつ、国内 10 カ所の経済特区の情報を精査、①特区のテーマと本事業目的との適合性（製造業が対象分野であること）、②日本企業側の関心、③カズネクスインベスト側の要望に鑑み、以下の 3 つの特区を訪問対象として選定した。

- ①経済特区「パヴロダル」(在パヴロダル市)：化学・石油化学
- ②経済特区「サルリアルカ」(在カラガンダ市)：金属・冶金、機械製造
- ③経済特区「IT パーク」(在アルマトィ市)：ソフトウェア開発、ハードウェア生産

以上の経緯により、本事業では、カズネクスインベストとの協力のもと、上記の各特区を訪問、サイトの視察と各特区における登録企業グループとの面談を行った。また、アスタナにおいてカズネクスインベストと面談、経済特区政策についての基本的説明を受け、意見交換を実施した。

10月21日より日本国内およびカザフスタン現地に事務所をもつ日本企業に対して参加募集を行い、外務省(在カザフスタン日本大使館)、JICA、日本原子力研究開発機構、また民間企業等より8名(事務局除く)の参加を得て、視察団を組織した。

2) 派遣日程：平成25年11月25日(月)～11月30日(土) 6日間

	日付	時刻	日程	宿泊地
1	11/25(月)	09:00 11:30 13:00 16:55 19:50 21:35	成田発(OZ107) ソウル(仁川空港)着 ソウル(仁川空港)発(OZ6961) アルマトィ着 アルマトィ発(KC855) アスタナ着	アスタナ
2	11/26(火)	07:10 08:10 10:00-11:40 12:15-12:40 12:50-13:35 16:00-16:20 17:10-17:40	アスタナ発(KC315) パヴロダル着 ■経済特区「パヴロダル」管理会社プレゼンテーション (於:DAMU-企業家サービスセンター建物内) ■パヴロダル石油化学工場視察 ■経済特区「パヴロダル」視察 12:50-13:35 AO「KAUSTIK」社訪問 ■D.トゥルガノフ・パヴロダル州第一副知事との面談 ■カザフスタン・アルミニウム精錬工場視察	パヴロダル
3	11/27(水)	09:10 10:00 12:00-13:30 15:00 18:00	パヴロダル発(KC316) アスタナ着 ■国家輸出・投資庁「カズネクスインベスト」と面談 (経済特区制度に関するプレゼンテーション他) アスタナ発(専用車) カラガンダ	カラガンダ

4	11/28(木)	10:00-12:00	■経済特区「サルリアルカ」視察 10:15-11:00 ビョーメル・アルマトウーラ/イゾプリユス中央アジア 11:10-11:20 ヒョンウ中央アジア 11:30-11:40 排水施設 11:45-12:00 展示室 12:00-13:00 プレゼンテーション	アルマトイ
		15:00-16:30	■社会事業公社「サルリアルカ」訪問	
		22:25 23:50	カラガンダ発 (KC310) アルマトイ着	
5	11/29(金)	10:00-12:00	■経済特区「IT パーク」視察 10:00-11:00 IT パークについてのプレゼンテーション 11:00-11:30 カザフスタン石油ガス大学学術研究センタープレゼン 11:30-12:00 ELTEX ALATAU 視察	機中泊
		12:00-13:00	■物理工学研究所訪問	
		23:15	アルマトイ発 (OZ578)	
6	11/30(土)	07:55	ソウル(仁川空港)着	
		10:00	ソウル(仁川空港)発(OZ104)	
		12:00	成田着	

◆宿舎

◇アスタナ : Grand Park Esil Hotel

住所 : Beibitshilik str., 8, Astana, Kazakhstan

電話 : +7 (7172) 59 19 01/ Fax : +7 (7172) 32 88 18

◇パヴロダル : Hotel Irtysh

住所 : 79, Bekturova street, Pavlodar, Kazakhstan

電話 : +7 (7182) 77 09 77/ Fax : +7 (7182) 32 68 62

Web : www.ertishhotel.kz/en/index.html

◇カラガンダ : DOSTAR-ALEM

住所 : 28, Stroiteley Avenue, Karaganda, Kazakhstan

電話 : +7 (7212) 400-400/ Fax : +7 (7212) 35-34-34

Web : www.dostar-alem.kz

◇アルマトイ : Hotel Complex Otrar

住所 : 73, Gogol Street, Almaty, Kazakhstan

電話 : +7 (7272) 50 68 06/ Fax : +7 (7272) 50 68 09

3) 面談記録

■経済特区「パヴロダル」管理会社プレゼンテーション

日時： 2013年11月26日（火）10:00～11:40

場所： DAMU—企業家サービスセンター建物内

参加者：

マラト・バイグジン	経済特区「パヴロダル」管理会社 社長
ビエケ・ボラトフ	経済特区「パヴロダル」管理会社 入居者協力・イノベーションプロジェクト部 部長
アレクセイ・フォミチェフ	AO「CAUSTIC」 財務部長
サギト・バキロフ	JSC国営会社「経済特区『パヴロダル』」投資家サービスセンター 主任マネージャー
エヴゲニー・シャルイギン	国営会社社会事業公社「パヴロダル」 産業・イノベーションプロジェクト局 主任マネージャー
ジャンドス・サディコフ	経済特区「パヴロダル」管理会社 入居企業協力・イノベーションプロジェクト局 局長
スラルイ・アフメトバエフ	KAZNEXINVEST経済特区財務・技術分析局 専門家

面談概要：

バイグジン社長 挨拶

- ・ 10ある経済特区の中からパヴロダルを選んでくれたことを大変うれしく思う。
- ・ パヴロダル経済特区は2011年末に投資促進およびインフラ開発のために設立された。
- ・ 2012年4月から本格的にプロジェクトがスタートし、F/Sのために7,500万テンゲが融資された。そのF/Sの結果、経済特区のインフラ開発には280億テンゲが必要と算定された。
- ・ 2013年は設計や書類準備のために地方予算から2億1,000万テンゲが融資された。
- ・ 現在は、経済特区のテリトリー拡大にも従事しており、非鉄クラスターを新規に開発するために4,000万テンゲが必要と言われている。
- ・ 来年度の共和国予算から35億テンゲをインフラ建設のために受けることになっており、すでにUPNKなど、一部の企業では工事を開始し、操業をスタートさせたプロム・バーザ・リソースなどもある。
- ・ 来年度予算で硫酸製造工場も建設をスタートさせる予定。
- ・ パヴロダル経済特区の主要企業であるAO「CAUSTIC」は10の共同プログラムを実施する予定。

経済特区に関するプレゼンテーション（ボラトフ部長）

- ・ 3,300haの敷地のうち、1,200haを入居企業に提供し、2,100haは貯水池などのインフラで占めることになる。
- ・ 経済特区「パヴロダル」の優先分野は化学製品と石油化学製品であり、特に石油コークス、日用化学品、薬剤、農薬、硫酸と樹脂である。
- ・ インフラはまだ整備中であるが、7プロジェクトがすでにスタートしている。
- ・ 税制の優遇措置は利益税0%、法人税0%、資産税0%、土地税（賃貸）0%、経済特区内で使う製品にかかる付加価値税（VAT）0%、経済特区内の生産用途で輸入したものに対する関税0%となっている。
- ・ 経済特区内のインフラ整備について、電力については発電所がすぐ近くにある。水の配管はすでに完成しており、イルティシュ川から供給される。そのほか、水処理施設、通関ポイント、通信インフラなど

も整備していく。

- ・化学分野について、パヴロダルにはサルファ、シリコン、石炭、カウリン等の原料がそろっており、これらを加工することで化学クラスターを展開する。カザトムプロムとCAUSTICが共同プロジェクトを実施することが決まっている。
- ・石油化学分野については、製油所と発電所が近くにあり、サルファの多く含まれた石油が原料となるので、硫酸を抽出し、建材に利用する。ポリマーやオクタン生産、石油コークスの電解装置の電極の設置、LNG生産なども検討し、石油化学クラスターを展開する。
- ・経済特区の管理会社はマスタープランの策定や外国投資の誘致などを積極的に行っていく。

【質疑応答】

- (Q) 経済特区開発の財源として、共和国予算、地方予算、さらに外国投資の導入も期待しておられるようですが、それぞれの想定比率はどのくらいか。また、外国からの投資に期待するものは何か？
- (A) 開発費280億テングについて基本的には共和国予算からの支出を想定している。うち、来年は35億テングを受けることが決まっており、工事をスタートさせることができる。
- パヴロダル経済特区にはソ連時代の化学工場があり、そのために整備されたインフラは後継企業の「CAUSTIC」が引き継いでいる。現時点で入居が決まっている企業はいずれも同社に隣接して建設することが決まっており、そのための工業用水、電力を供給するインフラや、鉄道を整備する予定である。外国投資については全面的に歓迎する。管理会社、つまり、経済特区の運営にも外国企業が参加することが望ましいと考えている。
- (Q) 経済特区でサルファの多い石油を原料として利用するとの説明があったが、パヴロダル製油所にパイプラインで供給されているのはサルファの多いカザフスタンのカスピ海沿岸産の原油ではなく、ロシアのシベリア産のものであるはず。どういうことか、カスピ海から鉄道などで輸送するのか？
- (A) 指摘は正しい。パヴロダル製油所供給されている原油はシベリア産で、硫化物が多いのはカザフスタン西部で生産される原油である。一方、南カザフスタンの石油にはリンが多く含まれる。西部の石油産地では、原油から抽出された硫黄が既に多く蓄積されている。(注：回答になっていない)

化学クラスターについての補足（フォミチェフCAUSTIC財務部長）

- ・ソ連時代、パヴロダルに化学工場が立地されたのは、原料として塩がたくさん取れ、水も豊富であったためである。続いて製油所が作られ、隣接して発電所も建設された。さらにアルミニウム工場の建設も予定されたが、遅れた。
- ・2002年にAO「CAUSTIC」が設立され、化学工場のインフラ、すなわち、電線、低圧ステーション、配管設備、自動車道路、消防施設、研究施設、オフィス建屋などをすべて継承した。
- ・CAUSTICはソーダを生産しており、年間約3,300トン。2008年からプロジェクトに着手し始め、2011年頃から戦略的投資家を模索しているが、まだ見つかっていない。
- ・先頃、カザトムプロムが資本参加した。カザトムプロムはウラン生産のために大量の苛性ソーダを必要とするため、これは戦略的な提携である。約1か月前に契約が行われ、同社はCAUSTICの株の40%を保有する形となったが、購入された株式は全て、新規発行分である。つまり、我が社はカザトムプロムの参入によりその分、純粋な事業資金を手にすることができたことになる。
- ・苛性ソーダの生産は50,000～60,000 t、塩素は30,000～45,000 t。塩素の方は市場規模に対してまだ少量であるが、設備の能力アップ（近代化）で生産を倍増する予定。

【質疑応答】

- (Q) 経済特区では入居企業は完全に無税であるという。では、経済特区自体はどのように収益を上げるのか？
- (A) 経済特区の目的は、投資を呼び込むことである。そのために国家予算等を使い、インフラを整備するのである。管理会社に外国企業が参入すれば、新たな経営の方法が導入されるかもしれない。
(注：「経済特区自体の経営・採算」という発想がないため、会話が成立していない。)

投資家サービスセンターについてのプレゼンテーション

◇コメント◇

- ▶ まだF/Sが終了しただけの段階で、インフラ整備は始まっていない。現時点で存在するのはソ連時代に整備されたインフラのみ。この地でのFEZ開発は、ソ連時代の工業地域の復興のようなものだ。
- ▶ ソ連自体の工場立地には、原料基盤の存在や人口分布など、ソ連一国としての合理性があったが、市場経済下のカザフスタンにおいてもそれは通用するのか、発言を聞く限りでは熟慮されたようには思えない。
- ▶ 特に、「投資を導入することが経済特区の目的でありゴール」という発言に代表されるように、特区を経営するという発想に決定的に欠ける。インフラを整備して企業を誘致すればそれで役割は終わり、と言っているように聞こえるが、本来はそれがスタート。初期投資としてのインフラ整備は完全に国がかりで行い（そもそもその点も明確ではないが）、資金回収は求めないとしても、以後の維持・管理はどうするのか。完全無税を維持するなら、恐らくは賃貸料の様なものを入居企業から徴収するのだろうが、そのあたりの方策を「管理会社に参入する外国企業」に期待しているのなら、虫が良すぎる。

■パヴロダル製油所視察

日時：2013年11月26日（火）12:15～12:40

場所：パヴロダル製油所（車窓のみ）

- ・この製油所は600万トン／年でガソリン、ディーゼル、家庭用ガス、重油を生産している。
- ・重油用の第二ユニットでは原油の加工度が85%で、これはカザフスタン最大である。
- ・第三ユニットではカザフスタンで唯一のクラッキングを行っており、ガソリン生産が約60%。
- ・カザフスタンで唯一、ピチューメンの生産も行っている。500,000トン／年。
- ・現在生産しているのはユーロ2だが、2016年までにユーロ5に上げる予定。
- ・製品は100%国内向け。
- ・従業員は約4,000人。

■経済特区「パヴロダル」視察

日時：2013年11月26日（火）12:50～13:35

場所：経済特区「パヴロダル」

対応：Zh.サディコフ マネージャー

面談概要：

「CAUSTIC」社訪問（フォミチェフ財務部長）

- ・ ソ連時代、化学工場があった敷地に2001年から現在の工場の建設を開始。
- ・ 生産能力は100,000 t だが、現在は30,000 t だけ生産している。国内の需要が少ない。したがって、国内需要を増やすことが課題であり、今後、我が社の周囲に建設される特区入居企業はその目的にかなうものである。当社の生産物を原料として利用するからである。
- ・ 濃度の異なる（32%、50%、99%）苛性ソーダを生産できるが、50%の製品が最も需要が大きい。

経済特区内視察（車窓）

- ・ 肥料生産工場とポリ塩化ビニル工場が最初のプロジェクト。
- ・ 中国との合弁のヒムプログレスは来年の第一四半期に完成を予定している。アルミ産業用の石油コークスを年産205,000 t 予定している。必要な電力は64,000MW/年。
- ・ いずれの工場も、カザフスタン国内の別の土地で生産を行っており、こちらに引っ越してくるもの。インフラが整備されるのを待てないとのことで、自力で送電線を引くなどしている。それだけ、無税というところの条件が魅力的だということだろう。

■パヴロダル州第一副知事面談

日時：2013年11月26日（火）16:10～

場所：パヴロダル州行政府

面談概要：

第一副知事、挨拶

- ・ 明日、サギンタエフ共和国第一副首相がパヴロダルを訪問するため、忙しくてあまり時間をとることができず申し訳ない。ただ、第一副首相の訪問に際して重要なテーマの1つとなるのがこの経済特区の問題である。

ROTOBO輪島、挨拶

- ・ お忙しい中、時間を割いていただいたことに感謝。
- ・ ROTOBO、本事業の概要、視察団派遣の経緯。
- ・ 日本ではまだカザフスタンの経済特区についてあまり知られていないので、今日、得た情報を日本で積極的に広めていきたい。
- ・ とても素晴らしい訪問プログラムを組んでいただいたことにあらためて感謝。

バイグジン社長、コメント

- ・ 本日、午前中に視察団との会合を行った。特区に関するプレゼンテーションをいくつか披露し、それに基づき活発な議論と質疑が行われた。その後、現場の視察も行った。具体的に今後、どのような協力ができるかは事務レベルで詰めていくことになるだろう。

輪島、コメント

- ・ 一例として申し上げるなら、CAUSTICという会社の方から早速、日本企業とコンタクトを取りたいのご希望をうかがった。具体的なご連絡を戴ければ、お手伝いすることができるだろう。このようにROTOBOは企業からなる協会であり、自身がビジネスに従事するわけではないが、会員をはじめとする

日本企業の紹介や、情報提供などのサービスを提供できる。今後の双方の交流活発化に期待する。

■カザフスタン・アルミニウム精錬工場（KAZ）訪問

日時：2013年11月26日（火）17:10～17:40

場所：カザフスタン・アルミニウム精錬工場

内容：

- ・ 全体で約180人が24時間体制で働いている。自動化が進んだ結果、最小限の人数となっている。
- ・ 溶鋳炉は144ユニットで地金の生産能力は25万t/年。原料のユニットへの供給は完全に自動化されている。成型ラインは中国製が2ラインとフランス製が1ラインだが、できる製品の品質はいずれも同じ。GOSTに準拠している。

◇コメント◇

- 市街から空港の方向に車で30分以上も離れた地点にぽつんと孤立して位置する。発電所や他の工場からもかなり離れているため何故か問うたところ、第一に環境基準により工業用地は居住地から距離を取らねばならない。第二に空港に近い。第三に発電所からも近い、とのこと。3点目については感覚の違いかそれとも他により利便性の高い発電所が近隣にあるのか？
- 2010年操業開始の中央アジアでは最新鋭のアルミニウム精錬工場。カザフはボーキサイトを産し、パヴロダルではアルミナに加工できるのだから、当地に精錬工場を置くのは全く理にかなっている。むしろ、なぜFEZと関連付けねばならないのか疑問。優遇など不要だろう。ふつうに営業して、ふつうに納税してもらう方が地域経済のためと思われるが？

■国家輸出・投資庁「KAZNEX INVEST」訪問

日時：2013年11月27日（水）12:00～13:00

場所：KAZNEX INVEST

対応：

- N.スイディコフ KAZNEX INVEST 副社長
- D.ムハメド・ラヒム KAZNEX INVEST 経営部長
- N.アフメトバエフ KAZNEX INVEST 経済特区財務・技術分析局 専門家

面談概要：

経済特区制度に関するプレゼンテーション（スイディコフ）

- ・ 現在、ジュロンというシンガポールの企業とともにFEZの登録制度をはじめとする現状について、ン評価作業を行っているところ。12月末までに作業を終え、政府に制度手系問題点について提言を行う予定。
- ・ 並行して、企業誘致活動も行っている。テナントのための制度的環境整備や、FEZに関する広報資料の作成などである。
- ・ カザフスタン国内の10の経済特区には、それぞれに特色がある。アティラウに石油化学パークが置かれたのは、同地で産する地下資源（石油）のためである。ホルゴスは中国との協力プロジェクトとなっており、オンスティック（南）は繊維産業を特色とする。アクタウは石油積出港として有名だが、経済特区は金属に焦点を当てている。
- ・ 経済特区はインフラ整備の進み具合にも大きな差があり、もっとも進んでいるアルマトイのITパークは

間もなく第二フェーズが終わる予定。ただし、一部で税の優遇措置はまだ機能していない。パヴロダルは資源が豊富だが、まだインフラ整備は行われておらず、これから展開する。サルリアルカでは51の登録企業のうち、8つが建設中あるいは建設が開始される場所で、来年操業を開始する企業もある。

- ・ 全FEZ登録企業495のうち稼働しているものが107、そのほとんどがITパーク登録企業である。87企業が建設中となっている。一様に言えることは、カザフスタンの経済特区は現在、発展段階にあるということである。

【質疑応答】

(Q)FEZの現状評価を行っているとのことだが、問題は登録制度だけか？

(A)いや、税制なども含め、全般的な分析を行っている。年末までに新たな戦略プランを策定し、政府に提出する。

(Q)戦略プランを政府に提出するという事は、何らかの承認を得ることか。具体的にどのような手続きを経て提出され、その文書の法的なステータスはどのようなものになるのか？

(A)新たな戦略案は産業・新技術省を通じて、閣僚会議、すなわち首相に提出される。法的ステータスとしては、おそらく閣僚会議決定によって承認されることになるだろう。

(Q)年内に、新しい経済特区発展戦略が閣僚会議決定として出るという理解でよいか？

(A)その予定である。

(Q) カザフスタンに限らず、アジアでもASEAN諸国でも、インフラ整備の投資をその後の公共料金で回収しようというのはなかなか難しい。というのも、社会インフラにかかる料金を上げることはとても難しいから。そうすると、ここでのインフラへの投資プロジェクトはどうなっているのか？

→ベーシックなインフラが投資として魅力でないことは承知している。政府は「国の予算でインフラを整備する」と言っているが、まだできていない。

→年末までに戦略プランを策定して提出するという事だが、その戦略プランには役所の承認が必要ということか？

→その通り。プラン案を産業・新技術省を通じて、首相に提出する。

→経済特区の管理にも外国企業にかかわってほしいと言っていたが、そうなのか？そもそも、経済特区にかかわる組織がたくさんあるように思われるが、その関係はどうなっているのか？

→すべてのインフラは国家の管理下にあり、さらに共和国政府の部局がインフラ建設を担っており、管理会社には現時点では属していないが、最終的には管理会社が管理できるようにする。

→つまり、現在のインフラは国ではなく、共和国政府に属しているということか？

→そうだ。

→新しくなる管理会社はどのように収益を得るのか？

→入居企業が税金ではなく、何らかの料金を支払うことになる。

→労働ビザの取得は緩和されるか？

→簡単になる。法的・規則的な状況を改善していきたい。

→日本は省エネ、環境技術をたくさん持っている。経済特区内にそのような日本の省エネ技術を展示するようなショーケースのようなシティを設置することはできるか？ここでしばらく展示し、一定期間が終わったらその設備を経済特区で利用できるようにするといった工夫をするとどちらにもプラス。

→まだインフラが整備されていないところであれば検討可能だろう。積極的に取り組んでいきたいと思う

が、そのためにはもう少し具体的な提案を用意してほしい。

コメント、総括

- ・ 日本企業の招致にぜひ協力したいと思うので、アップデートされるデータや情報を適宜お送りしてほしい。
 - ・ なぜ、日本企業の進出を望んでいるのか？
- カザフスタンは資源大国であるが、資源や資源加工から技術や高度で付加価値のある製品の生産が必要である。そのため、単なる投資家ではなく、独自の技術、付加価値をつけることができるような技術ラインを持つ投資家にぜひ参入してほしい。
- ・ コアとなるメーカーを誘致し、サポーティング・インダストリーも付随しているというクラスター的な発展も十分に考えられる。
 - ・ つまり、ベーシックな加工を高度技術に移転するために化学、冶金、ITを今回の訪問先として選んだ。そのような高度技術を持つ日本企業を求めている。なお、国の発展レベルが違うということは分かっている。日本の世界一の技術をカザフスタンにいきなり適用することは危険であり、ベーシックな技術の企業の存在が重要である。

■経済特区「サルリアルカ」視察

日時：2013年11月28日（木）10:00～

場所：経済特区「サルリアルカ」

対応：

- V.イヴァノフ 経済特区「サルリアルカ」管理会社「カラガンダ・インベスト」社長
- Zh.ロマザノフ 経済特区「サルリアルカ」管理会社「カラガンダ・インベスト」副社長

面談概要：

経済特区視察（車窓）

- ・ 管理会社というのは、主に水、電気、鉄道などを供給する会社である。
- ・ 経済特区の総面積は540ha。
- ・ インフラはすでにほぼ整備されており、たとえば、電力であれば、年末までに第2フェーズが完了し、480MW供給可能になる（現在は240MW）。ここは州で最も電力料金が安い。

ビョーメル・アルマトゥーラ（イゾプリュス中央アジアも）視察

- ・ ドイツ資本の会社で、4.3haの土地に700万テングを投資。バルブ生産（年産15,000トン）を行う。
- ・ 2014年第一四半期には操業開始予定。
- ・ 土地は国有であり、25年間リース契約。これについてビョーメルの幹部が州知事に対して、工事がすべて終了したら土地を購入したいという申し出があり、操業スタート後に申請してほしいと伝えた。基本的には無料で渡すことになる。
- ・ 建設はカザフスタンの業者、特にほとんどをカラガンダの業者が行っている。
- ・ 製品はカザフスタン国内向けで、主に産業用のバルブになる。
- ・ イゾプリュスは12.5haの土地に15億テング投資している。上記と同じく100%ドイツ資本。
- ・ 製品の主な市場はカザフスタン国内だが、ロシアへの輸出も考えている。

- ・ 水道、暖房設備のバルブや石油ガス輸送用のバルブを生産。
 - ・ 原料となる鉄は、カザフスタン、ロシア、ドイツ製と様々。生産設備はすべてドイツから納入する予定。
 - ・ 優遇措置を受ける代わりに、外国人労働者と同数のローカル従業員を雇用することを条件としている。
 - ・ 2014年第一四半期に完成し、7月には生産を開始する予定。
- ・ 両社の建設を請け負っているのはカザフスタン（カラガンダ）の建設会社。現地の業者を使うことでコストダウンにつながっている。同社の作業は素晴らしく、先日、ドイツから来た技術者5人からも満足していると聞いた。
 - ・ どちらの製品もロシアで認定されており、自社の製品を実際に工場の暖房用パイプとして使っている。
 - ・ 経済特区内に工場を建設することで、40%コストを削減できる。また、水道、ガスなどの据え付けに特区外だと1カ月～何年かかかるところを、特区内であれば1日ですべて完備できるという利点もある。
- ・ 経済特区内で発電は行っておらず、現在は外から取り込んでおり、元が安くても配送コストがかかっている。これを何とかすることは重要な課題。現在、特区内にはSubstationが3つあるが、ここに風力発電を導入すれば電力コストを削減できると考えている。なお、すぐ隣に熱併給発電所があるが、この発電所は環境に悪いので購入しない、
 - ・ 特区内の鉄道は年間200万トンの輸送能力。

ヒョンウ中央アジア視察

- ・ カザフスタンのISSファイナンスと韓国の合弁会社で断熱材入りのパイプの生産を行う。今年の12月末に試作品を生産し、微調整を行った後、春には正規の生産を開始する。
- ・ このショップで30,000トン/年生産が可能だが、基本的にはオーダーベースで生産を行う予定であり、まだ1シフトか2シフトかも決めていない。
- ・ 生産設備はドイツ製、日本製、韓国製などを入れる。
- ・ オフィスビルの中にはホテル（アパートのような）を設置し、技術者の生活環境を整える。
- ・ 現在建設中（4,000㎡）を合わせて4ショップ（1,000㎡×2棟と15,000㎡×1棟）建てる予定。スチールパイプのほか、湖底に必要なプラスチック製品や特殊な断熱材もここで生産する。

排水施設

- ・ 15,000㎡/日の能力を持つ排水設備を年末までに完成させ、来年から使えるようにする。
- ・ 水は基本的にイルティシュ川から供給しているが、敷地内に井戸を掘ったらきれいな水を得られることがわかったので、敷地内に井戸を掘る予定。

プレゼンテーション

- ・ 敷地の総面積は534ha。今日視察した3社はどれも間もなく工事が終わり、第一四半期には生産を開始する予定である。
- ・ 未使用の土地がまだ40haあるが、土地が不足しているため、サブゾーンを作る計画がある。
- ・ 今後、ポテンシャルのある分野としてはタングステン、バナジウム、モリブデンなどのレアメタルがある。日本企業は先進技術を持ち、世界中で需要もあるので期待できる。また、カザフスタンの車の半分は日本車であり、部品工場の進出にも期待したい。
- ・ 質疑応答

ー土地のリースが25年というのは短いような気がするが？

→これは経済特区法で定められており、25年が経過したら投資家は土地を購入（またはリース）し、生産を継続できることになっている。25年経過すると税制の優遇措置は受けられなくなるが、インフラはそのまま使用することができる。関税については関税同盟の枠内で別途定められており、2017年までは0%だが、その後はかかってくる。

ーインフラ整備は国費で行われるのか？

→その通り。

ー国家予算の投資額は？

→F/Sの結果、254億テングが必要といわれている。240億テングはすでに共和国から拠出されており、第一フェーズの60億テングで電力のSubstationを設置し、鉄道を開通させた。第二フェーズの130億テングで26のインフラ施設を設置し、第三フェーズ（2013～2014年）の40億テングで新しい線路や鉄橋を設置する。1か月後に第二フェーズ最後の設備である水処理設備が完成する予定で、必要なユーティリティは100%完成。

- ・敷地内に発電所を設置したい。カラガンダは工場がたくさんあるので電力は常に不足しており、今度は大統領の産業化プログラム実現のプロセスでもますます電力が必要となり、需要はたくさんある。ぜひこの情報を投資家に提供してほしい。石炭もとれるが、風力が望ましい。

■社会事業公社「サルリアルカ」訪問

日時：2013年11月28日（木）15:00～16:30

場所：社会事業公社「サルリアルカ」

面談者：

M.ボジバノフ	社会事業公社「サルリアルカ」副取締役会長
A.イズテレウオフ	社会事業公社「サルリアルカ」投資プロジェクト・投資家誘致局局长
G.カルギナ	社会事業公社「サルリアルカ」投資家サービスセンター所長
A.バティルベコヴァ	カラガンダ州官民パートナーシップ地域センター所長
N.セイトヴァ	カラガンダ州商工会議所会頭
K.トルバエフ	社会事業公社「サルリアルカ」 他、20名

面談概要：

社会事業公社「サルリアルカ」についてのプレゼンテーション（ボジバノフ）

- ・カラガンダ州の地域開発を行う組織。2011年に設立。主な役割は国家資産の管理と外国投資の誘致。
- ・「社会事業公社」は政府のコンセプトによって創設されたが、出資は各州の行政府が行っている。
- ・社会事業公社の機能は、イノベーションおよび投資プロジェクトの実現、地下資源の管理、価格の安定維持、住宅建設や修理など、多岐にわたる。
- ・社会事業公社は51の合弁企業で構成されており、その合弁には社会事業公社も資本参加する。
- ・産業分野における加工度の向上や技術者の育成に力を入れている。
- ・経済特区との関係でいうと、経済特区のインフラは国家予算であり、社会事業公社を通じて経済特区に融資される。実際に経済特区のオペレーターとなるのはカラガンダ・インベスト。

官民パートナーシップセンターについてのプレゼンテーション (バティルベコヴァ)

- ・ カザフスタンでは現在、官民パートナーシップを積極的に推進している。
- ・ PPPの対象として特に重点が置かれているのは地域別のプロジェクトであり、この実現を支援するのがセンターの重要な役割。プロジェクトそのものの策定にも携わっており、今サル業務も行っている。
- ・ カラガンダ州における潜在的なポテンシャルのあるプロジェクトとしては、電力、教育、医療、ごみ処理などが考えられる。
- ・ すでに多くのプロジェクトがあるが、プロジェクトごとにその段階は異なる。たとえば、テミルタウやカラガンダ市内の幼稚園建設やカラガンダ市内の診療所の建設に関するプロジェクトはほぼ完了している。

商工会議所についてのプレゼンテーション (セイトヴァ)

- ・ **ROTOBO**とわれわれと役割や課題はほぼ同じであろう。したがって、ぜひ今後情報交換をしていきたい。カラガンダでは日本の情報が少なく、当然、日本でもカラガンダ州の情報は少ないだろう。特に研修や教育を通じた教育で協力したい。

輪島、コメント・確認

- ・ まず、商工会議所について、日本には日本カザフスタン経済委員会というのが存在し、**ROTOBO**が事務局を務めている。そのパートナーとしてカザフスタン日本経済委員会の事務局はカザフスタンの商工会議所が務めており、会長はエシムベコフ氏。本委員会は定期的に会合を行っているが、いつも課題となるのは企業の情報が少ないということ。ただし、**ROTOBO**は日本とカザフスタンとの間のビジネス交流に関するサイトを運営している。このサイトを通じて、日本企業への情報提供が可能である。
- ・ プレゼンの内容について確認。社会事業公社「サルリアルカ」は州の予算を受けており、その予算を使って傘下にある51社に出資している。
- ・ PPPセンターは社会事業公社「サルリアルカ」の下部機関である。
→センターは独立した機関であり、出資は州政府（州の経済局）から受けている。共和国の省ともつながりはある。
- ・ 経済特区管理会社と社会事業公社との間の関係というのは、経済特区というのは民間であり、一方、経済特区のインフラ整備予算は共和国予算。社会事業公社は国家プログラムのオペレーターであり、経済特区は社会事業公社を通じて共和国予算を受け取り、実現されている。

日本側質問

- ・ PPPプロジェクトの外資誘致はどのように行っているのか？

→入札が基本となっているが、他のメカニズムもある。

- ・ 入札スケジュールは？

→いくつかは2014年、残りは2015年を予定している、2014年に入札を行うのは、幼稚園の建設、診療所の建設などだ。

輪島、質問

- ・ これまでに外国企業が関心を示したプロジェクトはあるのか？

→診療所についてはドイツ、スペイン、幼稚園はロシア、イタリア、トルコ、電力やエネルギーの分野は世界中から関心が集まっている。

日本側質問

- ・ 他の経済特区でも社会事業公社が同じような役割を果たしているのか？
→カラガンダではこのようなメカニズムを使っているが、直接、共和国予算が経済特区に流れているケースもある（社会事業公社はどの州や経済特区にもあるというわけではない）。

ボジバノフ、質問

- ・ ROTOBOの協力の成果にはどのようなものがあるか？
→ROTOBOはビジネスをしないので、売上高など、数字を示すことは難しい。ただし、ROTOBOの会員企業は日本の大手企業が多く、カザフスタンやロシアとの合弁の事例はいろいろある。
また、モスクワには現在、日本企業が198社進出している。残念ながら中央アジア諸国はまだ少なくカザフスタンに事務所を持つ企業は20社程度。
- ・ 社会事業公社としてはROTOBOと協力して共同プロジェクトを実施したい。日本の先端技術を何とか導入できるように頑張るつもりである。日本企業がカラガンダに進出することを望む。

輪島、まとめ

- ・ 本日はいただいたたくさんの情報は必ずROTOBOの会員企業や関係する政府機関に伝える。1点補足だが、日本とカザフスタンとの間ではロードマップというのを策定しており、そこには様々な段階のプロジェクトがリストアップされている。カザフスタン側で取りまとめをしているのはカザフスタン商工会議所であり、そのロードマップに提案していただいてもよいと思う。

ボジバノフ、まとめ

- ・ 今日カラガンダ州の投資政策策定メンバーが一堂に集結している。今後、日本との関係についてのポテンシャルを検討していきたい。

■ 「ITパーク（イノベーション技術／情報技術）」視察

日時：2013年11月29日（金）10:00～12:00

場所：経済特区「ITパーク」

対応：

Ye.S.コンディバエフ経済特区「ITパーク」管理会社社長

Ye.D.スタムベコフ地域企業家会議所所長 他

面談概要：

ITパークについてのプレゼンテーション

- ・ ITパークは2003年の大統領令によって設立が決まり、2006年に開所式が行われた。
- ・ 2003年～2011年の第一フェーズの間に生産ショップが作られたが、中はほとんど空っぽであった。大統領のイニシアチヴでマスタープランが策定され、入居企業が拡大し、2013年6月時点で150社が登録。しかし、敷地が80社分しかないため、20社は域外に設置した状態。
- ・ ITパークの入居企業には税の優遇措置が適用されておらず、これらの企業の税負担を軽くすることが重要な課題。

- ・ このITパークには通信関連会社が集中。
- ・ 第二フェーズで140haのインフラ建設がスタートした。コアプロジェクトとなっているのはKBTUの石油エンジニアリング・情報技術研究所の建設。
- ・ 仕事をしやすい環境を作るため、住宅などの社会インフラ整備が必要である。
- ・ 2020年までに入居企業を源氏あいの150から250に増やし、うち外国企業数を現在の4社（イスラエル、ロシア、フランス、韓国）から60社を目指す。
- ・ 過去5年間で500億テンゲの収入を得たが、2020年までには年間1,500億テンゲの収入を得られるようにする。また、現在輸出製品を生産しているのは1社しかいないが、収入の40%を輸出から得られるようにする。
- ・ 現在の労働者数は1,100人だが、2050年までには3,000～3,500の雇用を創出する。

カザフスタン石油ガス研究所についてのプレゼンテーション

- ・ 石油会社の融資によってできた民間の研究所でエンジニアリングが主な業務。カズムナイガスの子会社。学位を授与するような機能はなく、研究と再教育を行っている。
- ・ 7haの土地に1,700㎡のオフィスを設立。7つの研究ラボと3つの住宅施設を設置する予定。
- ・ この経済特区の優先業種の1つである学術研究に従事しているため、免税されている。
- ・ ITパーク従業員用の住宅施設が最大の問題である。今は多くの職員がアルマトィ市内から通っている。しかし、1日数時間しかここに滞在しなかったり、週に数日しか足を運ばなかったりする。彼らは市内で別のビジネスを営んでいることさえある。法律上禁止されていることであるが、現在は黙認している。

ELTEX ALATAU等の見学

- ・ 弊社は関税ゼロ、所得税ゼロが認められており残りの税金はすべて支払っている。全体のコストの約15%免除されている
- ・ 50%はロシア資本。
- ・ 製品はカザフスタン国内のほか、中央アジア諸国や中東へ輸出。
- ・ カザフスタンの法律はよく変わるが、7割くらいはその制度について自分で調べた。
- ・ 完成品の販売に関する支援があるとよい。

■ 「物理工学研究所」社訪問

日時：2013年11月29日（金）12:00～13:00

場所：物理工学研究所

対応：S.Zh. トクモルジン社長 他

面談概要：

研究所の概要説明

- ・ ソ連時代からある研究所で、当時は基礎研究だけを行っていた。今は応用研究も行っており、特にイノベーションに力を入れている。具体的には太陽光発電、水素エネルギー、LED生産など。
- ・ 日本のEIWA TECとパートナー関係にある。
- ・ 絶縁体の原料となるシリコンの開発・生産を実施。
- ・ 太陽光発電の発電効率を上げるための研究を英国のImperial Collegeと共同で実施している。以前は英国

で行っているが、いまは同研究所で実施。国家予算が充てられている。

- LED生産を行っている。
- ITパークの最初の入居企業であり、ITパーク設立前からこの場所に立っていた。ITパーク設立当時は、研究所の敷地を間借りしていた。今でも特区の入居企業に部屋を賃貸することは可能だが、共同プロジェクトを行うところにしか貸さない。

研究所内視察

- ブラックルーム
- 窒素ガス生産プラント

プレゼンテーション

- 大統領が掲げるグリーンエコノミープロジェクトに合わせて、太陽光発電の開発を進めている。現在は、国の補助金を受けて研究を進めているが、実際の開発などまで話が進むと、投資家が必要となる。
- サウジアラビアが強い関心を示している。
- アスタナソーラー社とは協力していない。技術レベルが低すぎる。どちらかという、競争相手。



経済特区「バヴロダグ」管理会社プレゼンテーション(11月26日)



同経済特区内CAUSTIC社視察の様相(11月26日)



経済特区「サルリアルカ」(11月28日)



社会事業公社「サルリアルカ」訪問(11月28日)

以上